

中 曾 根 総 理 訪 中 の 概 要 (その 3)

(鄧 小 平 主 任 と の 会 談)

6 1 年 1 1 月 9 日

外 務 省 中 国 課

9 日 午 後 10 時 より 11 時 まで 人 民 大 会 堂 に お い て 行 わ れ た 鄧 小 平 主 任 と の 会 見 の 概 要 以 下 の と お り。

1. 冒 頭 発 言

中 曾 根 総 理 より、我 々 の 世 代 の 友 好 関 係 が 強 固 に 進 む の は 間 違 い ない、2 1 世 紀 まで 同 じ よ う に 続 く よ う に 希 望 し て い る、今 世 紀 の こ と は 心 配 ない が、我 々 は 来 世 紀 の こ と を し っ かり 考 え ない と い け ない と 述 べ ら れ た。こ れ に 対 し 鄧 主 任 よ り、日 中 両 国 が 友 好 的 で ない 理 由 は ない 旨 応 答 さ れ た。

更 に 鄧 主 任 よ り、趙 総 理 は 中 国 の 支 配 人 で あ る か ら 色 々 な 話 が あ っ た と 思 う 旨 述 べ た の に 対 し、総 理 は、色 々 な 宿 題 を も ら っ た の で、帰 国 し て か ら 勉 強 し た い 旨 発 言 さ れ た。

2. 政 治 体 制 改 革 (鄧 主 任 発 言)

(総 理 よ り、政 治 体 制 改 革 と は ど う い う こ と を 考 え て お ら れ る の か と の 質 問 さ れ た の に 対 し、)

- (1) 未 だ 手 掛 り を 全 部 見 つ け た わ け で は ない。
- (2) 現 在 3 つ の 目 標 に つ い て 考 え て い る。そ の 第 1 は、党 と 国 家 の 活 力 を 保 持 し て い く こ と だ。活 力 と は 指 導 部 の 若 返 り で あ り、革 命 化 ・ 若 返 り ・ 知 識 化 ・ 専 業 化 の 4 つ の 人 事 の 近 代 化 で あ る。

若返りは、3～4年ではできない。13回党大会で一步踏み出す程度であり、14回大会(1992年)で更にもう一步踏み出し、15回大会(1997年)で成し遂げていくこととなる。その時まで考えると今自分(鄧主任)は83歳だから93歳になってしまうだろう。

しかし目標を設けることは必要だ。これから中国において30～40才代の政治家、学者、科学者及び文化人等が出ることは良いことだ。若い人を抜擢するような政策をとりたい。これは教育とも関連する問題だ。

- (3) 第2の目標とは、官僚主義を克服し、能率を上げることだ。人が多く仕事が多岐にわたっている。党と政府の機構が重複している。党が指導の任にあり、この仕事の能率化が大切である。日本も60～70年代にこの能率化を図り非常に発展したことを良く知っている。現在は特に科学・技術の発展が早く、1年遅れてしまうと中々取り戻せない。
- (4) 第3は人民の意欲を引き出すことだ。労働者、農民及び知識分子、いずれも意欲を引き出さなければならない。7年かけて改革を進めてきたが、まず農民の意欲を引き出したこと、そして権力を下げることをしたが、同様のことを他のことについても行いたい。これは管理の民主化にも連がる。これも日本でも良く行われていることだ。
- (5) 以上によつてはじめて4つの近代化に連がる。現在の政治体制改革は必要かつ緊急のものだが、経験がないので模索しながら進まねばならない。

3. 米ソ首脳会談 (鄧主任発言)

(総理より、アイスランドでの米ソ首脳会談を中心に米ソ関係

についてどう思うかと質問されたのに対し、)

対話は常に賛成だ。アイスランドの会談自体よいことだ。最近では米ソ自身この会談の結果をそう低く見ていないと思う。対話が拡充されていけば緊張が緩和されて非常に良いことだ。

4. 中ソ関係 (鄧主任発言)

(総理より、ウラジオストック演説に触れソ連の最近の外交をどう見るかと質問されたのに対し、)

- (1) (米国の某テレビ局の人と会った際も同じように回答したが) ソ連の歩みは変わっていない。中国に対しても同じである。中身の無いものが多い。三大障害を取り除くことについても中身が余りない。
- (2) カンボディア問題についての障害が解決すれば自分(鄧主任)はゴルバチョフ書記長と会見する用意がある、中ソ関係の大きな障害の1つは何といてもカンボディアの問題である。

5. 米中関係 (鄧主任発言)

(総理より、米中関係につき質されたのに対し、)

米国はそれほど遠くまで行きたがらない。中国も同じだ。中国は独立自主でやっいく。

6. フィリピン関係 (鄧主任発言)

(総理より、フィリピンに関し、アキノ大統領政権は基本的に健全な方向で行っているのではないかと述べられたのに対し)

アキノ政権を困らせるようなことはしない。

(これに対し、総理は、今の発言を明日お会いするアキノ大統領

領に伝えれば喜ぶと思うと述べられたところ、鄧主任は、有り難い、どうぞお伝えして欲しい旨述べた。）

7. マルクス・レーニン主義（鄧主任発言）

（総理より、マルクス・レーニン主義はすでに100年も経っているが、中国が創造的にこれを発展させていると受け止めて良いのかと質問されたのに対し、）

- (1) マルクス・レーニン主義は発展させるべきものだ。教条的なものでなく、中国の条件に合った形で教えていくべきだ。これはすべての社会主義国家についても言える。よってこのレーニン主義のセンター（中心）はない。
- (2) 中国は自主独立を主張するとともに、4つの有（理想、道徳、文化及び規律）を重視している。特に、理想と規律であり、青年の教育についてこの点大切にしたい。

中国における国民選挙というのは20～30年後に考えねばならない。今の中国ではまだ無理だ。中国は4つの有を保ちながら、近代化のために戦っていきたい。